

# Abstract

AROMA RESEARCH No.71(Vol.18 No.3)

森林を形作る樹木の香気成分の研究

長谷川登志夫 高山 瞭平

---

<要旨> 日本は、多彩な樹木に覆われた自然豊かな国である。埼玉県の秩父もその一つであり、その山間部には、林野庁によって森林浴の森日本 100 選にも選出された豊かな自然が広がっている。この森林浴の原因成分は、樹木の香気特性を形成している揮発成分と考えられている。しかし、これら揮発性の香気成分の詳細な検討は行われていない。本研究では、種々の抽出法により得られた抽出物の香気と成分の違いに着目した新規の手法を用いた。研究対象としては、特徴的な強い香気を有するサワラ、アブラチャン、ダンコウバイを用いた。この手法による詳細な検討から、これら樹木の香気特性には、主要成分に加えて微量成分も寄与していることを見出した。

<キーワード> 森林浴, 樹木, 香気特性, 揮発成分, 香気成分